



2023年度 鉄道事業設備投資計画

～ さらなる「安全対策の強化」と「サービスの向上」に向け総額261億円を投資 ～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、より安全・安心で快適な鉄道サービスの提供を目指して、2023年度に「安全対策の強化」と「サービスの向上」を重点とした総額261億円の鉄道事業設備投資を実施します。

「安全対策の強化」では、すべてのお客さまに安全・安心してご利用いただくため、「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、町田駅全ホームと本厚木駅3・4番ホームに特急車両に対応したホームドアを設置します。

また、町田～相模大野駅間や相模大野～東林間駅間の橋梁で耐震補強工事を行うなど、大規模な地震等に備えた安全対策を強化するほか、列車内での犯罪抑止や事件の早期解決等を目的に、車内防犯カメラを設置していきます。

「サービスの向上」では、通勤車両「3000形」をさらに快適にご利用いただくため、3編成リニューアルし、各車両へ「車いす・ベビーカースペース」を設けます。また、継続的に実施している駅舎改良工事では、中央林間駅ホーム等の改良工事のほか、鶴川駅、藤沢駅で橋上駅舎化工事に着手する予定です。

当社では継続的な鉄道事業設備投資を通じて、より安全・安心、快適な鉄道サービスの実現を目指してまいります。

2023年度 鉄道事業設備投資計画のうち主なもの

■ 安全対策の強化

1. ホームドアの設置

- (1) 町田駅1・2・3・4番ホーム
- (2) 本厚木駅3・4番ホーム

2. 橋梁の耐震補強等

- (1) 町田～相模大野駅間の「JR横浜線跨線橋」耐震補強
- (2) 相模大野～東林間駅間の「小田原線跨線橋」耐震補強
- (3) 酒匂川橋梁の塗り替え

3. 車内防犯カメラの設置

■ サービスの向上

1. 通勤車両「3000形」のリニューアル

2. 駅舎改良工事

- (1) 中央林間駅の改良工事
- (2) 鶴川駅、藤沢駅の橋上駅舎化工事（予定）



昨年度導入した本厚木駅のホームドア



改良後の鶴川駅のイメージ

「2023年度の鉄道事業設備投資計画」の詳細は下記のとおりです。

記

安全対策の強化

1. ホームドアの設置

お客さまのホームからの転落やホームでの列車との接触事故を未然に防止するため、町田駅1・2・3・4番ホームと本厚木駅3・4番ホームに特急車両に対応した大開口のホームドアを設置します。また、豪徳寺駅、千歳船橋駅、喜多見駅等でホームドア設置に向けた準備に着手します。

今後も、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、新宿駅から本厚木駅までの全駅と中央林間駅、大和駅、藤沢駅へ設置を進めます。



大開口ホームドア（本厚木駅）

<参考>ホームドアの設置状況と計画

① 設置済みの駅	新宿（4・5・8・9番ホーム）、代々木八幡、代々木上原、東北沢、下北沢、世田谷代田、梅ヶ丘、登戸、本厚木（1・2番ホーム）
② 2023年度 使用開始する駅	町田、本厚木（3・4番ホーム）
③ 2032年度までに 設置計画のある駅	新宿～本厚木の全駅のうち①②を除く駅、中央林間、大和、藤沢

2. 橋梁の耐震補強等

大規模な地震に備え、町田～相模大野駅間にある「JR横浜線跨線橋」と「境川橋梁」、相模大野～東林間駅間にある「小田原線跨線橋」で、橋脚の補強等を実施します。

このほか、新松田～開成駅間の「酒匂川橋梁」等で、劣化した塗膜の塗り替えを実施することで腐食を防止し、構造物の延命を図ります。



境川橋梁の耐震補強

3. 車内防犯カメラの設置

犯罪の抑止、事件の早期解決等を目的として、通勤車両と特急車両への防犯カメラ設置を推進します。今年度は通勤車両16編成、特急車両46編成への設置を予定しており、2025年度の設置工事完了を目指します。

サービスの向上

1. 通勤車両「3000形」のリニューアル

「3000形」6両・3編成をリニューアルします。各車両へ「車いす・ベビーカースペース」を1箇所設け、どなたにもよりご利用いただきやすくなります。さらに、省エネルギー化が図られる制御装置の搭載やオイルフリーコンプレッサーへの更新等により、環境にさらに配慮した車両へと生まれ変わります。



通勤車両「3000形」

2. 駅舎改良工事

中央林間駅では利便性向上のため「東口改札口の新設」や「トイレ改修」等を実施してまいりました。今年度はホーム改良工事に取り組み、駅舎改良工事の全体竣工は、2024年度を目指します。また、鶴川駅、藤沢駅では関係自治体と実施に向けた協定を締結し、橋上駅舎化に向けた工事に着手する予定です。



改良後の鶴川駅のイメージ

以上